

7世紀前半(推古朝)の改革

《中国》23 隋の成立[581]…強力な中央集権国家(律令制)→24 南北朝統一[589]

東アジア諸国の脅威 <例> 隋による25 高句麗遠征

26 推古 592~628 初の女帝(敏達の後后)

27 蘇我馬子…大臣 推古の叔父 物部衰退により大連不在→巨大な権力

28 厩戸王 (29 聖徳太子)…593. 摂政(?) 用明の皇子、推古の甥、馬子の婿

共同統治? 対立?

[1] 30 冠位十二階 [603]…冠の色で序列

31 徳・仁・礼・信・義・智×2(大小) 才能・実績に応じて32 個人に与える

目的 ①33 官僚の序列を明確化 ②34 人材登用

限界 ①35 従来の姓も存続 ②皇族と蘇我氏は対象外(別格?)

[2] 36 憲法十七条 [604]…最古の成文法(ただし偽作説あり)

内容 37 和の精神(1条)、38 仏教の尊重(2条)、39 詔(天皇の命令)への服従(3条)など

全体に 40 外来思想(儒教・仏教・法家思想など)の強い影響

限界 41 罰則はなく、あくまでも官僚(豪族)としての心構え

[3] 外交 (a) 42 任那復興→新羅遠征計画(600, 602, 604)→失敗または中止

(b) 43 遣隋使の派遣…44 「隋書」倭国伝及び『45 日本書紀』

600, 607, 608, 614年の4回(600年の遣使は「日本書紀」に記載がない)

46 607年47 小野妹子らを派遣→隋の48 煬帝は国書の内容に憤慨する

が、翌年答礼使49 裴世清を派遣(妹子と共に倭へ) ※高句麗への牽制

目的 ①50 国際的地位の向上…冊封(称号を受ける)から51 対等外交へ

②52 文化の直接摂取 →大化の改新へつながる

留学生 <例> 53 高向玄理、学問僧 <例> 54 旻・55 南淵請安

[4] 歴史書の編纂…『56 天皇記』『57 国記』620年完成(太子・馬子が協力)

目的 神話・伝承も含めて、天皇家と他氏との関係の整理 ←国家意識の高揚

ただし現存せず(645年のクーデターの際、蘇我蝦夷邸の炎上とともに焼失)

※58 天皇の称号の成立?…推古朝説と天武朝説がある

※聖徳太子622年没、蘇我馬子626年没、推古天皇628年没 →再び内政の混乱

正誤問題練習 <大学入試センター1998年日本試験、1995年追試験より>

①倭王の系譜や伝承などを記した『天皇記』や『国記』が、**5世紀**のころまとめられた。

②7世紀には、**小野妹子**などの留学僧が中国に渡り、仏教思想を学んだ。